

第四章 施設の整備（ハード）・運営（ソフト）にかかわる評価尺度・基準の検討

ここでは、第二章で取り上げた、先行調査、文献等と、第三章で述べた住まい手、施設事業者、紹介・相談機関等へのアンケート、ヒアリング調査を基に高齢者の住宅、施設の整備と運営にかかわる住まい手側が求める重要な情報を整理、体系化し、評価尺度と、評価基準を検討する。

ここで、確認しておかねばならないこととして、以下の2点がある。

1つは、評価尺度と、評価基準を作る目的は住まい手側への情報提供であるということである。施設を第三者的に評価して、施設の良し悪しを示すのではなく、住まい手側が、よりよい施設を選ぶ、手がかりになるような、有益な情報項目を選定し、その内容について情報提供をすることである。情報には、事業者や所在地、入居費用等の具体的な情報と、職員のマナーや態度、或は館内の掃除の状態の善し悪し、日照や眺望の善し悪しなどの情報も含まれる。情報には、生の情報と、評価という判断の加わった情報があり、後者の情報を含め、情報にはその価値を判断する評価尺度があれば有効であるということである。

もう1つは、住まい手側の視点である。施設を第三者的に客観的に評価するばかりでなく、特有の状況下にある特有のニーズを持った住まい手にとっての評価にも配慮するということである。ある程度は住まい手側の判断に委ねねばならない情報もあるし、さらに、高齢者にとっては、多量の情報が提供されても、それを読み解くことは難しいと考えられ、重要な情報が体系化、整理されてわかりやすく提供される必要がある。



- 住まい手側で求める情報、重視する情報、誤解が生じやすい等の情報項目を洗い出し、住まい手側の必要な情報項目の体系化、整理を行う。
- その情報項目はどうあるべきかという観点から評価の指針および尺度を設ける。

以下の手順で検討することとする。

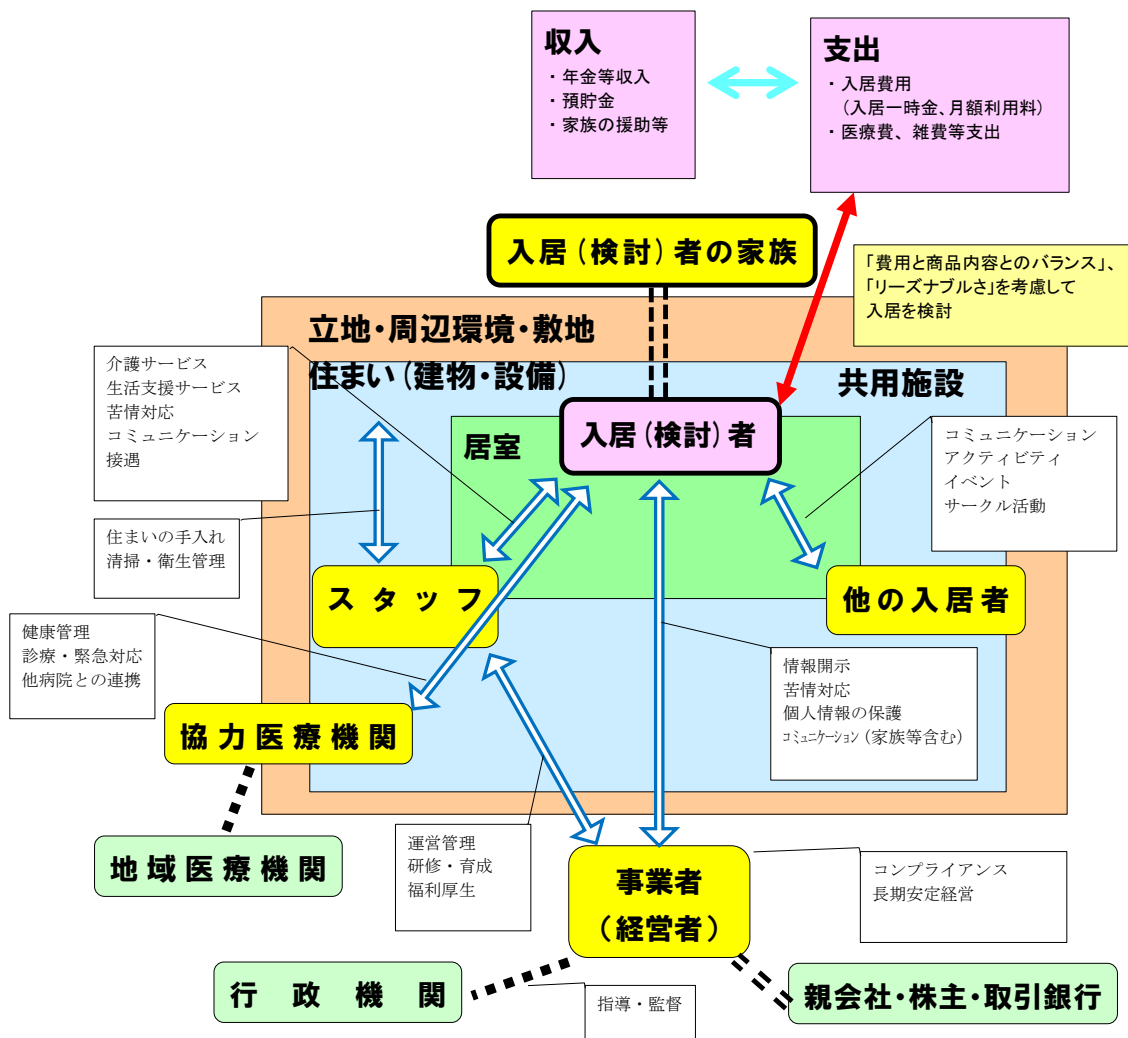
1. 高齢者住施設にかかわる情報項目の体系化と整理
 - ↓ 1) 入居（検討）者を取り巻く環境
 - 2) 施設に関わる情報項目の洗い出し
- ↓
2. 情報項目を評価項目と捉え、その評価尺度・基準をつくり、施設類型別の詳細チェックリストを作成する。
- ↓
3. 住まい手側で求める項目、重視する項目、誤解が生じやすい項目等の見地から項目を絞り込み、実際の施設調査を想定した場合の施設類型別重点項目チェックリストを作成する。

I 高齢者住施設にかかわる情報項目の体系化と整理

1. 入居（検討）者を取り巻く環境

- ・入居者（検討者）を取り巻く環境という視点から、高齢者住施設にかかわる情報項目を体系化すると漏れも無く、入居者にも全体像が把握しやすいと考えられる。
- ・以下の図は、介護付有料老人ホームを想定しているが、入居一時金等特有の項目を除けば概ね他の種類の施設にも該当すると考えられる。

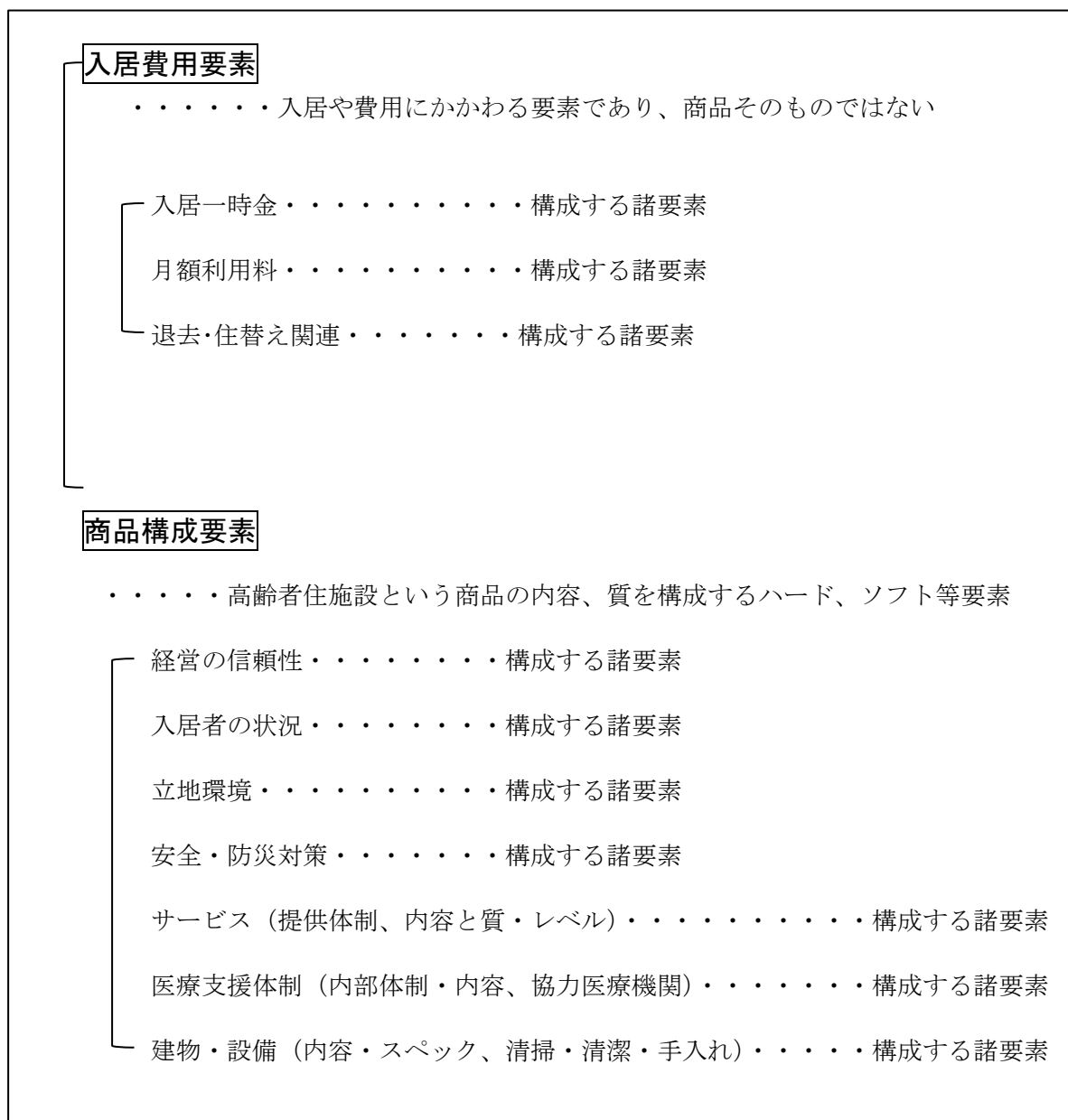
■入居（検討）者を取り巻く環境



2. 施設に関わる情報項目の洗い出し

1で挙げた「入居（検討）者を取り巻く環境」において示した項目に基づき、以下の体系に整理し、構成する諸要素を洗い出した全体像を次ページの図のように示す。

■高齢者住施設にかかわる情報項目の体系



■施設に関わる情報項目の体系（全体図）

